

丹後市民局

ルックルック!

NEWS
クリスマス増刊号



友情出演した「宇川軽音」のメンバー



宇川軽音による「鞍内橋のたもとで」の演奏



在日米陸軍軍楽隊「フジ・ウィンズ」

素敵な演奏で会場はクリスマススムードに

12月14日(火)に宇川アクティブライフハウスにて、米陸軍経ヶ岬通信所主催の「在日米陸軍軍楽隊演奏会」が開催されました。

当演奏会では、宇川軽音(代表:吉井儀八郎さん)が友情出演され、在日米陸軍軍楽隊の演奏前に、オリジナル曲である「鞍内橋のたもとで」のほか、「ふるさと」、ぎよしのよる」の3曲を演奏しました。

宇川軽音の演奏後、神奈川県座間市のキャンプ座間を本拠地として活動している在日米陸軍軍楽隊「フジ・ウィンズ」が演奏しました。

「シングルベル」、赤鼻のトナカイ」などのクリスマス定番曲から、「いつも何度でも(千と千尋の神隠し)」、「さんぽ(となりのトトロ)」といったジブリ音楽など、誰もが一度は耳にしたことがある楽曲で、来場者は木管楽器の柔らかい音色に聞き入っていました。

また、演奏の途中には、サンタクロースやトナカイの衣装をしたメンバーが登場するサプライズもあり、ワイワイと子供たちの楽しむ様子も見られ、会場は素敵なクリスマススムードに包まれました。

トレーニングが趣味の地域づくり支援員吉岡秀真が「丹後町な体操」を紹介するコーナー!

たんご健康体操

第20回「鬼祭りの型」

毎年12月の丑の日(今年は19日)に竹野神社で「鬼祭り」が行われます。討伐された鬼の魂を鎮めるための祭りですが、少し怖い内容のお祭りです。

今回は、同志社大学の学生さんを特別ゲストに迎え、「鬼」という字をモチーフとしたエクササイズです。同志社のみなさん、間人でのワークショップお疲れさまでした!そして、ありがとうございます!

①のポーズ

- ・右足を大きく前に出します。
- ・上半身をひねり、片方の腕は後方へ、もう片方は頭の上へ突き上げます。

②のポーズ

- ・上半身を逆方向へひねったら、足を入れ替えてやってみましょう。

年末年始は「こたつむり」になりがちなので、体を動かして血流を良くしましょう!

(地域づくり支援員 吉岡秀真)



12月14日(火)に開催された「在日米陸軍軍楽隊クリスマス演奏会」

主催:米陸軍経ヶ岬通信所
協賛:宇川軽音
会場:宇川アクティブライフハウス

丹後町の人口		
	R3.11月末	前月比
0-14歳	422	0
15-64歳	2,254	△5
65歳-	2,125	△7
計	4,801	△12



↑丹後市民局ルックルックNEWSのバックナンバーはこちら

掲載団体や話題を大募集!

スポーツ、文化芸術、サークル活動など、皆さんに広く知ってほしいニュースがある団体や個人を募集します。掲載を希望される方は、丹後市民局までご連絡をお願いします。

【連絡先】京丹後市市長公室丹後市民局(Tel.0772-69-0714)

※誌面の都合上、全ての希望に沿うことはできません。ご了承ください。

丹後町な人 (後編)



依連ヶ尾山登山
駐車場から山頂まで30分
少し疲れましたが山頂からの景色
は山と海と川の大自然いっぱい
の丹後の風景でした。

私がしたい宿は暮らすように泊まる宿です。この3年間いろいろな体験させていただきました。地海苔漉きや、いろいろな場所での田植え、稲刈り、依連ヶ尾山登山、ビーチクリーン、シーカヤック、サップ、サーフィン、青の洞窟めぐり、イカ釣り、アジ釣り、飛び魚すくい、鮎とり、山菜とり、エゴマ栽培、ラベンダー収穫、魚の捌き方、うに捌き、染色、そば打ち、しめ縄づくり、草刈り、郷土料理など、街にいたら中々出来ない事を、の3年間でいろんな人と関わり合う中で経験させて頂きました。本当に感謝いたします。この経験の対価に見合う働きができるように、この地域に還元していきたいと思っております。



袖志の棚田で田植え体験
もちろん、稲刈りも体験しました。

地域での活動はそれぞれの分野で役割分担が必要ではないかと考えます。街でも、同じ事をやっている店ばかりだと人が多くいても成り立ちません。地域全体で、丹後町全体で地域の色を出し、共に面白い、楽しい丹後町にしていく事が、過疎化の問題が深刻な地域にとって、目指すべき形であり、丹後半島の一番端にある丹後町にまずは足を運んで地域を知ってもらおう事が、京丹後市にとっても、もしかしたら問題を解決する一つの事例になるのではと私の3年間の活動を振り返って、思いました。

正直もちろん高齢者の交通や買い物、暮らしの問題は深刻ですが、今現にそれを深刻にとらえ地域のために動いてくれている方々がいろいろいます。その方々は長年ここに住み続け、年々信頼関係を深め、今の現状を少しずつ変えてこられました。またUターン3年の素人の私にできる事ではないと感じましたし、じゃあ私は何が出来るかと考えた時、体を使う作業しか出来ません。それなら、私にしか出来ないこと、なにかと考えた時、私が培った街との繋がりと、地域の繋がりを結ぶ役になれないかと考えるようになりました。

地域の事を考えるのは自分自身に余裕がないと中々できるものではないという事も、地域おこし協力隊で働かせて頂いていたからこそ分かりました。新型コロナウィルスの感染拡大により、正直私が考えていた3年後ではなかったわけですが、時代と共に生き方や働き方、生活の仕方が私が思っているより早く変わっていくのだと感じました。ただ私がずっと言っているように、小さい頃に感じた根源にあるものは何年経っても変わりません。それはここで暮らす人達をみていて丹後町の人達が、海のない人生は考えら

れん。」と口にするのをよく耳にします。自然が隣人のような身近な存在であり、代々自然と共に暮らしてきたからこそ、自然と口をついて出る言葉だと感じました。それは丹後の暮らしを体現した言葉であり、私にとって、人生の糧となる言葉です。

今後は、丹後町の良いところを多くの人に伝え、体験してもらい、それが少しずつでも広がり、本当にその地域の人達を大切に思ってくれる方々が観光に訪れていたいただけるような素敵な丹後を描いていけたらと思います。

最後までお読みいただきありがとうございます。3年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。またどこかで見かけたらお声がけください。これからも引き続きどうぞよろしくお願います。

(地域おこし協力隊卒業生 大木 史帆)



丹後町な人 (後編)

地域おこし協力隊卒業生
大木 史帆さん



今回の丹後町な人は、前回に引き続き大木史帆です。地域おこし協力隊丹後町担当として過ごした3年間の振り返り後編です。

★3年間活動し何を感じたのか？ (前回の続き)

海、山、川と美味しいものを知っている人達は食にも厳しく正直です。そういった事を踏まえてもやはり豊です。私が街で抱いていた違和感には食にもあったんだと感じました。祖母が畑で作った野菜の煮炊きしたもの、母の親元間人から頂いた海の幸、手間暇かけストーブで炊かれた総菜など、小さい頃の暮らしの体験が大人になっても忘れられないまま、いつしか自分の理想像として体に染みついていったんだと、Uターンし、もう一度丹後で生活する事で気づきました。自分も自然豊かに育つていたのだと気づいたのです。私の田舎は何もないよ。」と街の知り合いに言っていました。小さい頃はそれが当たり前だったので気づいていませんでした。どれ



袖志の秋の風物詩
イカの一夜干し

だけ丹後の暮らしが豊だったのかを比べるものが出来てやっとなかったのです。街での生活はお金を出さないと自然界に近づく事が出来ません。良い食材は手に入りません。丹後は自然を身近に感じる環境があり、自然の流れに逆らわず生活すれば、お金をかさなくても、馳走に恵まれま。丹後での生活は生き物との共存で成り立っているのではないかと考えています。人間も共に暮らす動物です。また、丹後の大荒れの海を見ても感じますが、自然には人間も逆らえませぬ。かないません。自然からみたら人間も小さな動物です。丹後の暮らしは、自然に生かされている感覚になります。こういった感覚を街から来た人達に、来た時だけでなく提供できればそれが対価となり、その土地で生活できる基盤になるのではないかと考えています。丹後の人達に



宇川のアユ



袖志での“のりすき”体験
地海苔のおいしさに舌鼓

とつて身近にある自然は、街から来る人たちが求める自然であり、丹後の暮らしの中で無理なく提供することができれば、持ちつ持たれつの関係が築けるのではないのでしょうか。

地域資源が豊富にある丹後町では、それを目当てとした多くの人達が来町されますが、その地域資源を活用しているのはボランティアの方々ばかり。街から訪れる人がお土産を購入したり、貴重な体験に対価を支払いたくても、今の現状では受け入れる体制が無いように感じています。観光だけに目を向け、開発されてしまうよりはよいと思いますが、観光目当ての方々は思い出に残る食や体験、お土産を求めてくるのではないのでしょうか。ここきたからこその味わえる景色を見ながら体感することが出来る何かを求めて来て頂いているように感じます。



丹後半島の先端、海拔148mの断崖に建つ白亜の経ヶ岬灯台